

カリフォルニアの風（令和6年3月号）

「卒業、修了に思う」

カリフォルニアに青い空が戻ってきました。

明日は卒業式、修了式。一年を締めくくる日を迎えます。私ども教職員一同、大切なお子さんをお預かりし、ご期待に添えるよう努めてまいりました。これまで、補習校に寄せられました、ご理解とご協力で深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

先日、訪問した学校には、廊下の柱のいたるところに、「感謝」「思いやり」を主題にしたポスターが掲示してありました。その内容に惹きつけられ、思わず立ち止まって拝見。

また、次の訪問校では、中高部発行の図書新聞を読んでものお礼の言葉を書いていた。「中学部に行くのが楽しみになりました」「おすすめの本に興味がわきました」などのメッセージが。

その次の訪問校では、文化祭に向けて、休み時間に、発表の動作確認を仲間としていました。授業後には、自分の踊る姿を窓に映して練習に励んでいる様子を、かいま見る機会がありました。

さらに、次の学校では、義援金の募金活動を行っていました。生徒会会長さんから、「1,207.87ドルの協力をいただきました」という報告を受け、感謝の想いで心がいっぱいになりました。

その会長さんはじめ、生徒会役員のみなさんは、学芸祭の進行役が見事でした。「出過ぎる杭は打たれない」「僕ほどたくさん失敗をした人はいないから、…」のメッセージは、後輩へ「よさを伸ばそうよ、挑戦しようよ」という想いが込められていました。

このひと月を振り返っても、4校どの学校も、子どもたちが本当にすばらしく、とても素敵で、うつくしいと感じました。そのような子どもたちの心根には何があるのでしょうか。私は安心感ではないかと思います。それはお家の人と「一緒に…」から得ているもので、補習校とのゆききに話をしたり聞いたり、当番をされている姿を見かけたり、お腹が空いているときにいただくお弁当、一緒に音読、一緒に読書、一緒に…などのぬくもりを感じていたからではないでしょうか。

明日の卒業式、修了式の日も、これまでと同じように、お子さんに安心感を持たせてくださいますようお願いいたします。きっとお子さんは、誇らしげな姿を見せてくれるとともに、ご家族の温かい支えがあったことを心から感謝し、卒業、修了の喜びをかみしめていくことになる、と思うからです。どうぞよろしく願いいたします。

最後になりますが、明日、卒業、修了するお子さん一人ひとりに『さらに、一歩前進』という言葉を贈らせていただきます。この先も、人との出会いを大切に、自分の興味や関心に正直に向き合い、いろいろな経験を積んでいってほしいと願っているからです。立ち止まっていたら失敗もしません。カリフォルニアの空は青く、その下には「日だまり」があります。そこは、お子さんが、お子さんらしく輝くところ。お子さんが、補習校を卒業、修了したことの誇りを持ち続け、次の時代を担う「いつか世界の架け橋」となる人へと、大きく成長されますことを心から願い、一年間のご支援、ご協力のお礼に代えさせていただきます。本当に、ありがとうございました。